

TSR - Press Release

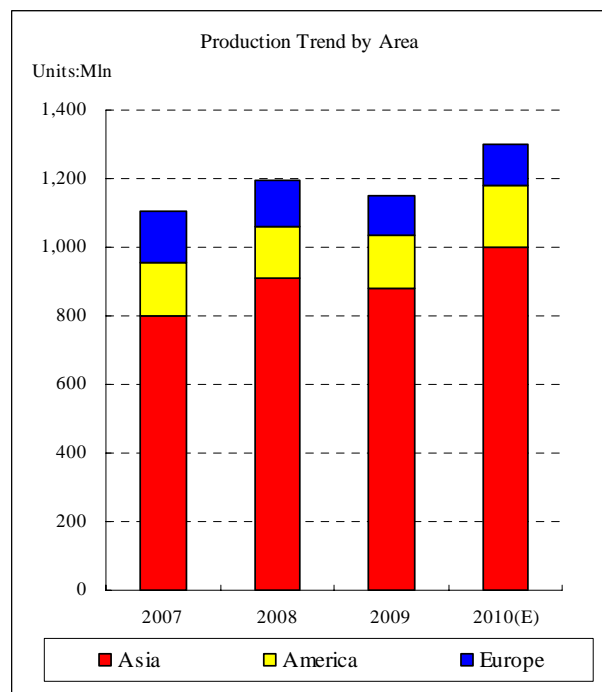
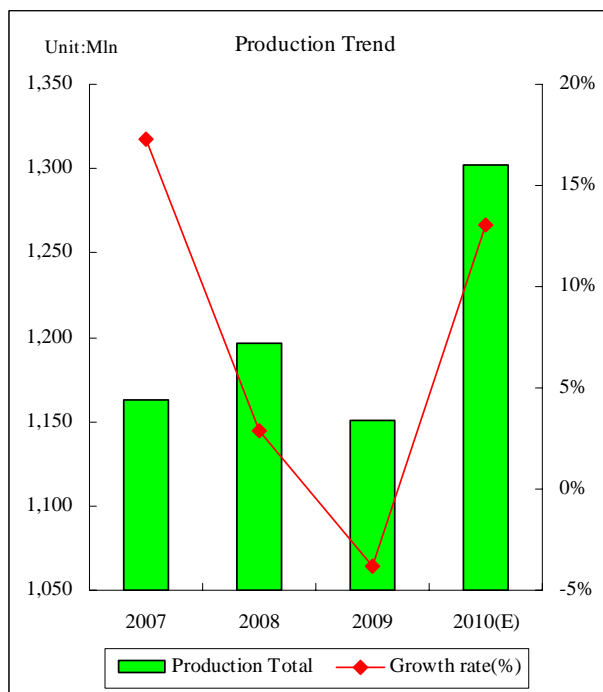
2010年の携帯電話の総生産台数は前年比でプラス13%に達する見込み

～ 中華系メーカーの成長に加え、Apple、RIM、HTCなどのスマートフォンベンダーが大きく成長 ～

株式会社テクノ・システム・リサーチは、2010年6月上旬に携帯電話生産台数の世界市場に関する季刊調査報告書『Mobile Display Quarterly Information A 端末編』の2010年第1四半期号を発刊しました。

2010年第1四半期の需要は3億台に僅かに及ばなかったが、前年同期比でプラス13.1%と大きく成長を遂げた。これは2008年第1四半期とほぼ同じ水準である。エリア別では依然として中国市場の需要が大きいが、インドを含めたその他のアジア市場の需要も堅調に伸びてきている。

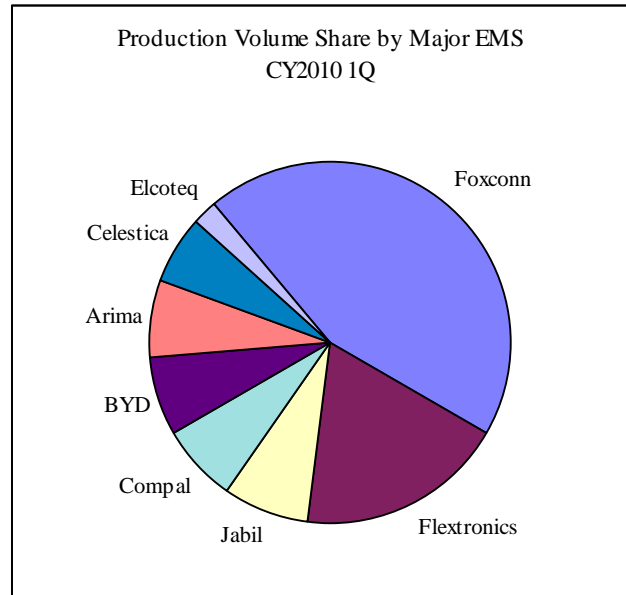
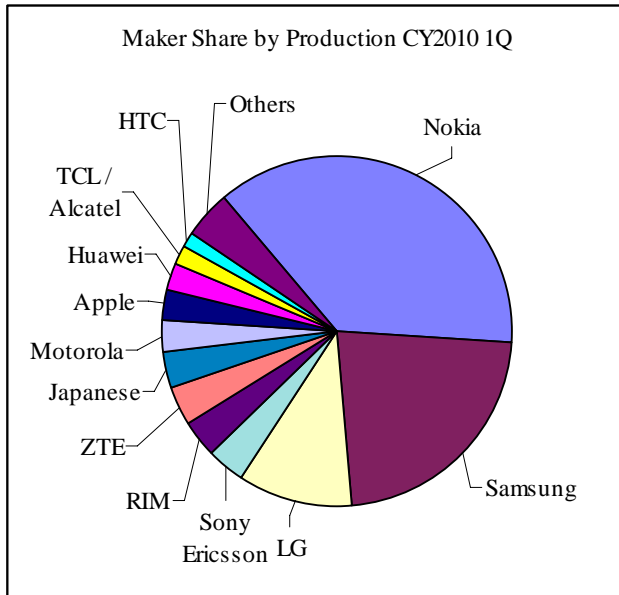
その結果、2010年第1四半期を終えた時点で、2010年の年間の総需要は12億5千万台を上回る規模が見込まれる。さらに、山寨機(White-box)やコピー製品なども加えると、市場全体は15億台規模になるものと見られる。



エリア別の生産動向を見てみると、主要セットメーカー及び主要EMSが生産拠点を構える中国やインドを含むアジア・エリアの生産数量が、2009年に引き続き2010年も8割近くを占めるものと見られる。また、成長市場である南米を抱えているアメリカ・エリアの生産数量も年間合計で成長率が前年度比プラス10%を上回る勢いを見せている。

続いて主要セットメーカーの2010年第1四半期の生産動向を見てみると、依然としてNokiaが生産台数のシェア第1位を保持しており、市場全体の4割近くを占めている。また、SamsungとLGもそれぞれ20%以上、10%以上のシェアを確保しており、昨年に引き続き好調を保っている。また、今期はSony Ericssonが4位の座を維持したが、Motorolaは5位の座から転落した。代わって、RIMとZTEが生産台数を伸ばし順位を上げてきて、AppleもMotorolaとほぼ並ぶ台数を生産した。

昨年の第1四半期と比べると、AppleとTCLが200%を上回る成長を遂げ、MotorolaとSony Ericsson以外の主要なセットメーカーはいずれもプラス成長を果たした。また、日系メーカーも全体としてはプラス成長となった。



2010年第1四半期は、昨年後半より活気を帯びてきたスマートフォンの需要が引き続き堅調に推移し、Apple、RIM、HTCなどのスマートフォン専業ベンダーの成長が著しかった。また、従来トップ5メーカーと呼ばれてきた主要5社(Nokia、Samsung、LG、Sony Ericsson、Motorola)も本格的に取り組み始めてきた。特にMotorolaは主力製品の「Droid」や「Cliq」などを、北米を中心として主要各国で販売を開始し、第1四半期における同社の出荷台数に占めるスマートフォンの割合は3割近くに達した。さらにPCメーカーのスマートフォン市場への参入も徐々に本格化してきている。

主要EMS(OEM及びODM)のベンダー動向を見てみると、生産総数は昨年に引き続き落ち込みを見せている。依然としてNokiaが外注縮小政策を続けていることが主たる要因となっており、Foxconn、Jabil、Elcoteqなどが大きな影響を受けている。その一方で、LGよりローエンド製品の生産委託を受けているArimaなどは前年同期比でプラス成長を記録した。また、スマートフォン需要の伸びを受けて、FoxconnやElcoteqなどの主要なEMSは大量生産を見込めるローエンド製品だけでなく、スマートフォン生産を受注することにより利益を確保する動きも見られる。

【資料紹介】

『Mobile Display Quarterly Information A 端末編』は日本を含む海外携帯電話市場に関する調査報告書で四半期毎に発刊しております。エリア別の長期及び中期の需要動向や主要セットメーカーの生産動向に加え、主要なEMSのベンダー動向も盛り込んでおります。

【プレスリリース及び資料のお問い合わせ先】

株式会社テクノ・システム・リサーチ

第2グループ 戸波勝徳(tonami@t-s-r.co.jp) 武花勇一(takehana@t-s-r.co.jp)

TEL:03-3866-4505 / e-Mail:info@t-s-r.co.jp